

### 恵那文楽保存会(中津川市)

恵那山の麓にある中津川市「川上地区」に伝わる恵那文楽は、元禄年間(二六八八)一七〇三の初期に淡路のくぐつ師(人形遣い)が川上地区の人々に伝授したのが起こりだと伝えられています。

時代の移り変わりとともに、恵那文楽を取り巻く環境も変わっていききましたが、川上地区の人々により人形の頭と芸が大切に守られ、昭和三十三年には、保存されている四十七首のうち二十三首が「岐阜県重要有形民俗文化財」に指定されました。

さらに、昭和五十六年には恵那文楽が中津川市の「無形民俗文化財」の指定を受け、平成元年には「岐阜県重要無形民俗文化財」の指定を受けました。

また、大阪文楽劇場、東京国立劇場等への出演の他、カナダのケローナ市やフランスのロワール県及びパリ市での海外公演も果たしました。

現在、毎週土曜日を稽古日として活動をしているほか、ジュニア文楽教室を平成二年より立ち上げ、児童への指導をしています。練習の成果は、ふるさと芸能文化発表会・地元神社例大祭 地域行事イベント等で披露しています。

郷土に連綿と根付いた伝統芸能文化を、会員一同が後世に受け継ぐ使命を胸に活動して参ります。



### 地歌舞伎×文楽

文楽とは、人形浄瑠璃とも呼ばれ、「太夫」「三味線」「人形遣い」が一体となって作りあげる日本を代表する古典芸能の一つです。岐阜県には江戸時代前期に美濃地方に伝わり、現在、県内には6団体が存在し、毎年各地で定期公演が開催されています。今回は特別に、「人形の操り講座」や地歌舞伎でもおなじみの演目である「絵本太功記 十段目」を恵那文楽保存会に披露いただきます。地歌舞伎と文楽、それぞれの表現をぜひお楽しみください。



清流の国ぎふ

# 地歌舞伎 勢揃い公演

初秋



### 恵那歌舞伎保存会(恵那市)

当保存会は、戦前から大井駅(現在の恵那駅)前商店街の店主たちが中心となり活動し、大井町の中心部にあった「大栄座」で地歌舞伎を上演していました。しかし、昭和四十年代半ば頃から戦後の映画ブームにより劇場が映画館に変わり、会の活動も休眠状態となります。

昭和六十年代に再び歌舞伎が復活し、各地で上演され始める中、平成九年六月に恵那ライオンズクラブの年度引継ぎ例会で、「白浪五人男」を上演したことを契機に、クラブ内の有志十五人で芝居同好会「獅子座」を発足誕生させました。当会の目的の主たるは、福祉施設での慰問活動でした。

翌年、東濃歌舞伎中津川保存会の定例地歌舞伎公演に出演することになり、三代目中村津多七師匠から声がかかり、当時休眠状態であった恵那歌舞伎保存会を「獅子座」が継承することとなりました。今後も微力ながら地歌舞伎伝承に努めて参ります。



### 地芝居の魅力発信「WEBミュージアム」

保存団体による公演情報やアーカイブスなど、魅力あふれるコンテンツを発信中



地芝居大国ぎふ WEBミュージアム

ぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネル



地歌舞伎勢揃い公演の動画を配信中!

### 次回公演のお知らせ

清流の国ぎふ



※詳細はホームページにてお知らせいたします。

## 地歌舞伎 勢揃い公演 秋

11月12日(日) 秋公演

出演：気良歌舞伎保存会(郡上市) 高雄歌舞伎保存会(郡上市)



### 地歌舞伎とは

地歌舞伎とは、地元の素人役者たちによって演じられる、地域に根付いた歌舞伎です。江戸や上方で盛んであった歌舞伎は、地方を巡るプロの旅役者によって全国各地に広がり、それに憧れた地方の人々が神社の祭りに演じたり、芝居小屋を造ったりと、自ら楽しむようになりました。現在、岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体が存在し、9軒の芝居小屋が各地に現存しています。岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、芝居小屋をはじめ、毎年各地で定期公演が開催されています。江戸時代から伝わる演目や振付が大切に受け継がれ、親しまれている岐阜県の地歌舞伎をご堪能ください。

「清流の国ぎふ」文化祭2024さきがけプログラム

清流の国ぎふ

# 地歌舞伎

## 勢揃い公演 初秋

2023年9月10日(日)

◆会場 **ぎふ清流座**(ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール)

◆開演 14時00分(開場13時00分)

◆上演外題・出演

14時00分(20分)

特別プログラム「人形操り講座」

14時25分(45分)

絵本太功記 十段目 尼ヶ崎の段

〔特別出演〕恵那文楽保存会(中津川市)

15時30分(70分)

飯多手本忠臣蔵 三段目

足利館松の間刃傷の場・裏門合戦の場

恵那歌舞伎保存会(恵那市)



恵那文楽保存会



恵那歌舞伎保存会



### イヤホン同時解説

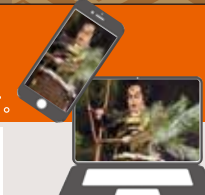
演目の見どころやあらすじについて、分かりやすく解説します。

地芝居大国ぎふ応援大使 古典芸能解説者 葛西 聖司氏

### ライブ配信

公演の様様をぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネルで配信します。

ぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネル



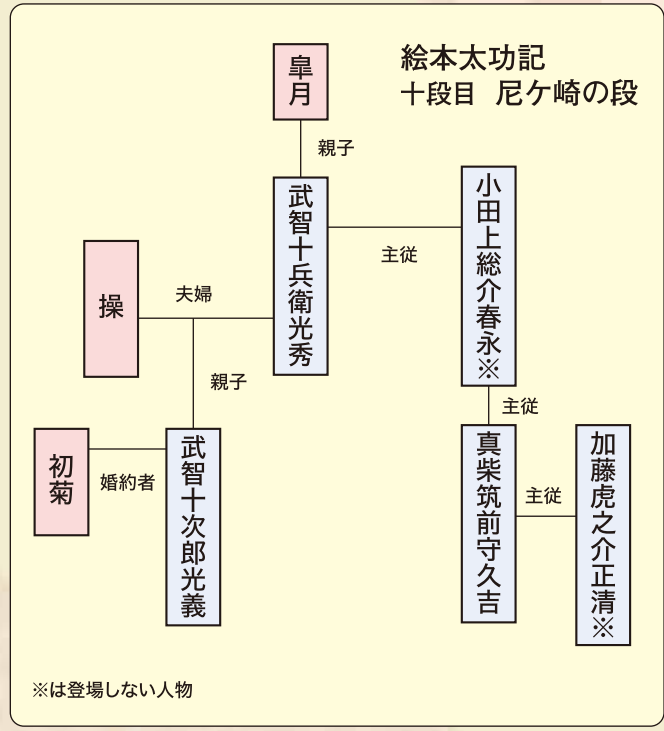
絵本太功記 十段目 足利館松の間刃傷の場・裏門合点の場 恵那文楽保存会(中津川市)

武智十兵衛光秀の母 皐月は、謀反人を産んだ悲しさに胸を痛め、光秀に自害をすすめた後、尼ヶ崎のほとりに隠居をかまえていました。皐月が独り暮らしをしている所へ、光秀の妻操と武智十次郎光義の許嫁 初菊が連れ立って、機嫌伺いに来ました。あとから十次郎が、出陣の許可を得るために皐月の所へ来ます。皐月は孫の出陣を喜び、初菊との祝言も一緒にと支度にかかります。討ち死に覚悟の十次郎は初菊に思い切るように諭しますが、初菊は聞き入れません。

やがて、鎧兜に身を固めた十次郎と初菊の盃事が行われ、十次郎は出陣いたします。嘆きのなかへ旅僧が、風呂が沸いたと知らせますので、皐月に先に入るようすすめて、三人は奥の仏間へ入りました。

光秀は、そこへ忍び込んだ旅僧こそ真柴筑前守久吉とらんで、竹槍を湯殿口へ突っ込みましたが、意外にそこにいたのは母の皐月。さすがの光秀も仰天しました。

操も初菊も驚き悲しむ所へ、深手を負った十次郎が戻り、味方は大敗との知らせをして、皐月も十次郎も息絶えます。



※は登場しない人物

仮名手本忠臣蔵 二段目 足利館松の間刃傷の場・裏門合点の場 恵那歌舞伎保存会(恵那市)

時は足利尊氏の将軍の時代。

鶴ヶ岡八幡宮にて、征夷大将軍尊氏の弟 足利直義が鎌倉鶴ヶ岡八幡宮に新田義貞の兜を奉納することとなりました。しかし義貞を討ったとき、そのそばには四十七の兜が散らばっており、どれが義貞の兜か分からず兜を集めていました。この中から義貞の兜を探し出すため、かつて宮中に内侍として奉仕していた塩谷判官高貞の妻 顔世御前が兜改めをすることとなります。

無事に兜改めの儀も終わると、顔世の美貌に以前より執着していた高武蔵守師直が顔世に言い寄り、文を無理やり渡そうとします。そこへ折よく来合わせた桃井若狭之助安近に顔世は助けられました。邪魔されて怒りを隠しきれない師直は、若狭之助に散々に罵り、怒った若狭之助は師直を斬ろうとしますが、判官に押し止められました。

その後も気が進まない若狭之助は、家老の加古川本蔵行国に師直を討つ決心を伝えます。本蔵は主君の身を案じ、足利館の門前で登城する師直に、若狭之助からと多くの賄賂を贈ります。

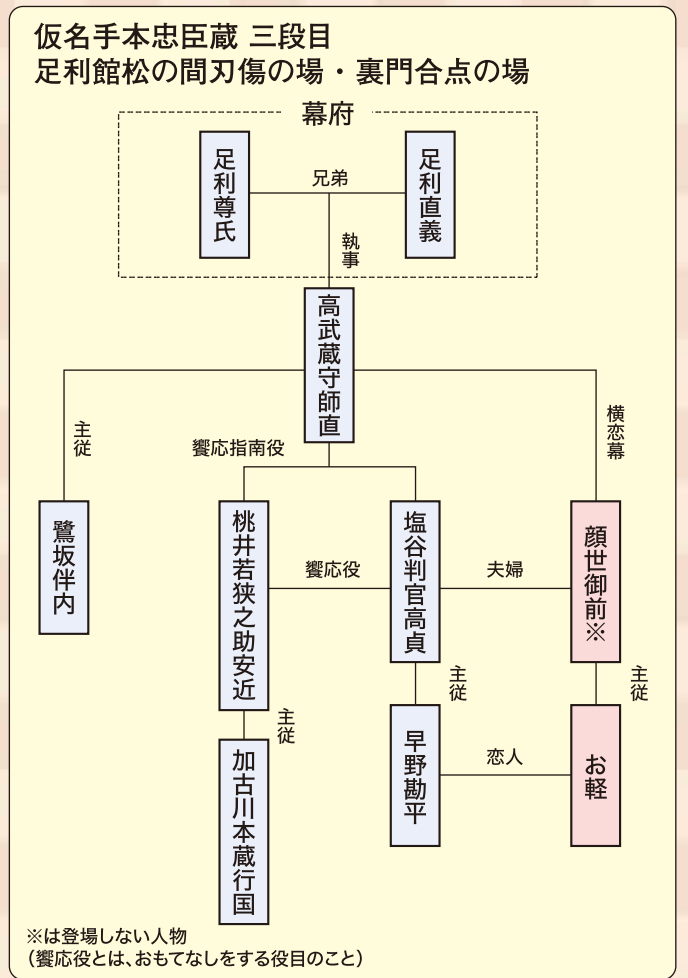
演目はここから始まります。二幕続けてお楽しみください。

足利館松の間刃傷の場

その後、登城した若狭之助に平身低頭して謝る師直。若狭之助も師直の豹変ぶりに拍子抜けします。賄賂のためとはいえ、若侍に平謝りをしたことが許せない師直。そこへ少し遅れて登城してきた塩谷判官に、屈辱の怒りをぶつけます。馬野雑言に、判官もついに耐え切れず、師直に斬りつけました。しかし、主人若狭之助を見守るため潜んでいた本蔵に背後から抱き止められ、とどめをさせぬまま取り押さえられます。

◆配役

- 高武蔵守師直 樋田芳久
- 塩谷判官高貞 松原慎
- 桃井若狭之助安近 水野宏昭
- 加古川本蔵行国 大岡琢美
- 顔世御前※ 鷺坂伴内
- お軽 柘植孝彦
- 早野勘平 富成幸人
- 井戸慎一 楠利徳



※は登場しない人物 (響応役とは、おもてなしをする役目のこと)

◆配役

太夫 安藤邦一

三味線 豊澤龍太

口上 原康昭

人形遣い (二場)

十次郎 大井文高(主遣い)

初菊 原信弘(左遣い)

原康昭(足遣い)

原哲子(足遣い)

皐月 佐藤あゆみ(主遣い)

操 吉村節子(左遣い)

久吉(僧) 市岡伸之(足遣い)

今井輝幸(主遣い)

大井久美子(左遣い)

市岡礼子(足遣い)

大井文高(主遣い)

原信弘(左遣い)

原康昭(足遣い)

光秀 原直尋(主遣い)

原康昭(左遣い)

原光志(足遣い)

佐藤あゆみ(主遣い)

吉村米蔵(足遣い)

安藤聡志(左遣い)

市岡礼子(足遣い)

大井文高(主遣い)

原信弘(左遣い)

吉村米蔵(足遣い)

佐藤聡志(左遣い)

市岡礼子(足遣い)

大井久司(主遣い)

大井久美子(左遣い)

原哲子(足遣い)

イヤホン同時解説

葛西 聖司氏

東京都出身。古典芸能解説者。NHKアナウンサーとしてテレビ、ラジオで様々な番組を担当してきた。現在は、歌舞伎や能狂言など古典芸能の解説や講演、また日本伝統文化のセミナーを全国で開催している。「教養として学んでおきたい歌舞伎」、「教養として学んでおきたい能狂言」、「僕らの歌舞伎」、「文楽のツボ」ほか著書多数。令和四年四月より地芝居天国きふ応援大使に就任。

裏門合点の場

館は判官の刃傷により、表門裏門ともに閉められました。腰元のお軽と情事の最中だった早野勘平は館で騒動が起こったことを知り、慌てて館の裏門へと駆けつけますが、門番の話には主君判官が刃傷に及んだことにより、閉門を命じられ罪人の乗る網乗物で自らの屋敷に帰ったといっています。

主人の一大事に、色事にふけて居合わせなかったことに責任を感じ、勘平は刀に手をかけ切腹しようとしています。しかし、お軽は勘平を止め、ひとまず自分の実家に行き、時を見てお詫びをして欲しいと縋りつきます。勘平もお軽の言うことを聞いて伴内を追い散らし、主君判官の身を案じながらお軽の故郷山崎村へと向かうのです。

◆配役

- 早野勘平 和田雅也
- 腰元 お軽 西谷敦子
- 鷺坂伴内 志田哲雄
- 家来 山口清季
- 酒井秀明
- 山本基博
- 横井友康
- 振付指導 岩井紫麻(伊藤 麻里)
- 竹本文
- 豊沢龍太
- 杵屋勘輪咲
- 松本奈津美
- 松本宙士
- 松本茂み
- 松本匠平
- 林まゆみ
- 小川厚子
- 松本真由美
- 三宅恵里奈
- 中津川衣裳
- 磯貝哲

協力	振付指導	岩井紫麻(伊藤 麻里)
	竹本文	
	豊沢龍太	
	杵屋勘輪咲	
	松本奈津美	
	松本宙士	
	松本茂み	
	松本匠平	
	林まゆみ	
	小川厚子	
	松本真由美	
	三宅恵里奈	
	中津川衣裳	
	磯貝哲	
	狂言方附け	